

事業所名： グループホーム にこにこだいと

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372700641		
法人名	株式会社 いわい		
事業所名	グループホーム にこにこだいと		
所在地	〒029-0431 岩手県一関市大東町猿沢字板倉60-1		
自己評価作成日	令和7年11月30日	評価結果市町村受理日	令和8年4月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族様や職員の協力のもと、引き続き感染症対策には理解をいただき大きな集団感染等も無く事業を行えています。地域活動も少しずつ参加を再開し、近隣小学校の運動会や学習発表会に見学に行ったり、地元文化祭に作品展示と見学など行っています。令和5年の秋から始めた共用型の認知症対応型通所介護も、延べ人数で見ると平均して6割程の稼働が出来ており、グループホームの空床の際には通所利用の方をショートステイ利用していただくなど、事業の目的に応じた展開が出来ています。もっと宣伝をしていき、契約人数を増やしていくことが目標となっています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、一関市大東町猿沢地区の中心地域に立地しており、改修した旧猿沢診療所の2階部分を使用し、1階には同運営会社の経営するデイサービス事業所がある。隣接して猿沢診療所があり、多くの利用者が安心して通院できる医療環境となっている。一昨年から新たに認知症デイサービスも始め、意欲的に地域の多様なニーズに対応する取り組みを進めている。地域の小学校や保育園との交流、中学生の職場体験の受入れなど、地域との連携・交流を積極的に進めている。訪問診療医の協力を得て看取りの体制が出来ており、重度化への対応力が高くなっている。2階に位置するため避難時の困難さ解消に向け、近隣に住むデイサービス施設職員の協力を含め、適切な避難体制の構築を検討している。家族からの意見や要望を把握するため、今年から独自の家族アンケートを行っており、これからのケアサービスの充実と改善に繋がることが期待される。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年12月18日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム にこにこだいとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	グループ理念をもととして日々の介護に取り組んでいる。研修や会議には積極参加し、出来なかった者も後日資料や動画視聴し、全員参加で取り組んでいる。	開設時からの理念を継続しており、家庭的な雰囲気、その人らしさを大切に介護を基本として、笑顔で挨拶し思いやりの心で接するという理念の考え方を常に意識するよう、毎月のミーティングやケアミーティングの際に管理者から話している。	職員への理念浸透を図る取り組みが、少し不足しているように思われます。職員ミーティングの際などに、理念を話題に取り上げたり、事業所内に見やすく掲示するなどして、職員理解が深まっていく取り組みを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	近隣小学校の行事(運動会、学習発表会)や地元開催の文化祭への参加など、利用者様と参加できるものは積極的に参加している。今後は家族を対象としての催しなどもあればと考えている。	昨年、地元の小学校から運動会や学習発表会などの学校行事への招待があり、利用者が参加して楽しんでいる。また、1階のデイサービスにハロウィンや敬老会の際に保育園児たちが訪れ、グループホームの利用者とも交流し喜ばれている。中学生の職場体験の受け入れも積極的に行われ、交流が活発になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域交流の場は少しずつ増やしていることで、私たちの姿を見てもらう機会は増えているが、地域に向けての積極的な展開は出来ていないと思われる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	推進会議では決まった報告内容を伝えている。今年度の開催は現時点で3回開催であるが、施設との日程の調整が上手くいかず、2回が報告で終えてしまっている。また推進員から推進員の変更を相談されている。	委員には地域の自治会長と区長、近隣の住民代表者が参加しているが、民生委員は未参加の状況にある。9月からは対面での開催が出来ているが、書面開催が多かったこともあり、意見交換はあまり出来ていない。次回開催時には、事業所で行った家族アンケートの結果などを報告し、会議の活性を図りたいと考えている。	地域の関係者として、福祉の理解者である民生委員の参加は必要と思われる。会議は、日程等を工夫しながら対面で開催し、活発な意見交換に繋がることを期待します。

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこにこだいとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	行政主催の研修などには積極的な参加を心掛けているが、参加出来なことも多々ある。また業務上での不明点は、行政組合介護保険課に相談、確認、アドバイスをいただいている。	市から地域包括支援センター職員が毎回参加しており、また、普段から広域行政組合の介護担当課とはその都度疑問点などを相談している。生活保護受給の受給者には担当ケースワーカーが定期的に訪問しているほか、防災面では高齢者避難が発令された場合は専用フォームを入力して報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	GH、DS、居宅事業所それぞれから選出したメンバーで委員会を構成しており、身体拘束に関する研修や資料の展開をしている。施設としての施錠は夜間のみで継続している。	運営会社全体で設置した適正化委員会は、3ヵ月毎に開催され事業所から1人が委員として参加している。委員会の内容は職員全員に周知されている。研修会は事例検討を含め年2回開催され、スピーチロックの対策として職員自身が事例を書き出してみたり、セルフチェックする等の工夫を凝らしている。玄関は、外部からの侵入防止のため、夕方5時から朝6時頃まで施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	GH、DS、居宅事業所それぞれから選出したメンバーで委員会を構成しており、身体拘束に関する研修や資料の展開をしている。施設としての施錠は夜間のみで継続している。現在は研修は事業所で分けて、にこにこプラザだいとう全体で展開している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	虐待防止や個人情報保護など、利用者様の権利擁護に関わる資料や研修などを業務ミーティングに取り込んでいる。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこにこだいとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には運営規定を用いて事前の説明を行い、契約と流れを立てている。事前の見学や申し込みの段階、電話での問い合わせ時にも同様の対応を行っている。特に目安として料金表は参考として必ず渡すか試算をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	受診対応時や計画書のサインをもらう際に説明や聞き取りをしている。	家族からは受診時や介護計画の作成時等に意見や要望を伺うこと多く、急ぎの場合はLINEを利用することも増えている。機能訓練をさせて欲しい等の要望が出され、可能な範囲で対応している。今年から事業所独自の家族アンケートを行っており、現時点で9人中7人から回答を得ており、意見等には内容に応じて対応することとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の業務ミーティングの他、ケアミーティングの際に連絡事項や情報共有の機会を設けている。また、個人面談必要に応じて行っている。	職員ミーティングなどで様々な意見が出されいる。意見として「新たに開始した認知デイの利用者を送迎する場合の手当支給」が出され、1階のデイサービス事業所の手当支給を参考にするなど、職員からの意見をもとに改善されている。年1回、管理者との個別面談も行なわれ、業務以外のプライベートな事柄も聞く良い機会となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	可能な限りで要望に応えた勤務表を作成している。基本として月あたり希望休は3日としているが、ほとんどの方がそれ以上の希望を出している。希望に応える分、連勤などの協力できる部分を頑張ってもらえるように伝えている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこにこだいとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ミーティング時の伝達や情報共有は行っている。SGグループの研修や外部の研修にも参加の働きかけはしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他施設と職員が関わる機会は少ないが情報の共有はしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前の情報をもとに職員間で情報共有や考えられる問題や対策などを検討して置くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様とは特に連携を密とし、契約時や入居時には「私達と一緒に関わっていく気持ちを持っていただいて、家族だからこそできる部分の力を貸していただきたい」と伝えています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族様、ケアマネジャー、その他情報提供書などを参考に、本利用者の変化に早い気づきを持つよう関わっています。		

事業所名 : グループホーム にこにこだいとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様にとって負担のかからない、無理のない範囲で他利用者様との関りを試みております。必要に応じて仲介にも入っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様とは特に連携を密とし、契約時や入居時には「私達と一緒に関わっていく気持ちを持っていただいて、家族だからこそできる部分の力を貸していただきたい」と伝えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地元散髪店の来所や、近隣保育園、小学校などと交流を増やし始めている。	馴染みとなっている実家近くの美容院に家族が同行して通う利用者がお楽しみになっている。他の利用者の多くは3ヵ月毎に来所する訪問理容を利用しており、新たな馴染みとなっている。また、受診の際に家族とともに実家に立ち寄り、正月には外泊してくる方もいる。誕生日には、その人の希望する馴染みのメニューを提供することもあり好評となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が介入してのレクや談笑の場を設けています。手伝いや日課にも積極的な参加が見られます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了してからもお会いした際には近況を伺ったりしています。入院退居した方が、退院の見込みが出来たと言われたので相談したくて…と、連絡を受けたことが先日あった。		

事業所名 : グループホーム にこにこだいとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話や行動をもとに状態の変化を含め対応を定期で検討している。早期の対応が必要な際には随時対応している。	自分の思いや意向を言葉で意思疎通できる方は6人程で、他の3人は言葉では難しくなっている。物を取られるとか、部屋に無断で入ってくるとかの不安を話す利用者には適切に対応している。希望が多いのは食事に関する事で、テレビやチラシ広告からお寿司などの希望が多く、なるべく行事食で提供するなどで対応している。出かけたという意向も多く、お花見や紅葉狩りなどの外出で対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人からの聞き取りは勿論、ご家族様やケアマネジャーからの情報を随時利用させてもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者様の現状に応じたプランを作成し、支援を行っている。変更の際には必ずケアミーティングを開催し、意見やポイントをまとめ、職員統一の対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者様のプラン検討については必ずケアミーティングで職員間に周知している。必要に応じ検討し直し、より良いプランと、プランに沿った支援が出来るように心掛けている。	入居後は1ヵ月毎のケアミーティングで内容を検証し必要な場合には修正しており、概ね3ヵ月後に正式なものとしている。その後は3ヵ月毎の見直しとしているが、中期で6ヵ月毎、長期で1年毎の見直しとなる方もいる。モニタリングについても、職員全員が参加するケアミーティングで行っており、各職員の意見が集約されている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこにこだいとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	申し送りノートを活用して共有を図っている。急ぎの件の場合は職員間のグループLINEを使用していることもある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族様の協力のもと極力聞き取りを行い、確認を混ぜながら実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の催しに参加するなど関りは徐々に取り戻している。続けることで機会も増えてくると考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	基本的には入居前からのかかりつけ医を継続している。必要に応じて近況報告をまとめた手紙や、動向をしている。	6人の利用者が隣接の猿沢診療所をかかりつけ医とし、近接の利便性もあり医師との連携も十分に取られている。他は一関市内と大東町内に各1人と一関からの訪問診療の利用者が1人となっている。訪問診療の医師は24時間の対応も行うほか看取りの協力医にもなって、事業所にとっても心強い存在となっている。薬については東山町の薬局から薬剤師が分包して届けてくれており有益である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に一回看護師の定期訪問にて、健康チェックを行っている。必要に応じて簡単な処置や整容をしてもらっている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこにこだいとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には入院先に情報の共有をして、入院中は現状確認を目的として、医療機関と連携を取っている。退院後の支援方法を主治医やご家族様に相談・検討し、方針を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時に、ご家族様に説明し、『重度化・看取りに関する同意書』にサインをいただいている。GHにおけるターミナルケアについて訪問診療の医師から研修を受けており、今後も継続していく方向である。	重度化・看取りに関する指針を作成している。入居の際に本人と家族に対して説明し理解を得ている。看取りについては、現在取り組んでいる方が1人おり、訪問診療の医師が協力医となって体制は整えられている。介護度が増して重度化した場合には、近隣の特養施設などへの施設変更を支援する場合も多くなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急救命講習を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	BCPに基づき災害時、感染時とそれぞれ研修、マニュアル確認をしている。GHだけではなく建物内施設合同で行うことで共有化が出来ている。非常用備品については各事業所で確認、補充、管理している。	火災想定避難訓練を年2回、地震想定訓練も実施している。事業所が2階にあり、車いす利用者も2人いることから、避難訓練ではエレベーターを利用しているが、実際の火災時には停電も想定されるため、2階からの避難には困難性が増すと考えられ、夜間避難では近隣に居住するデイサービス施設の職員の応援体制を含め検討を重ねている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様の思いや願いを尊重し、出来る限り汲み取り支援に努めている。声掛けや介助で不適切がないようにミーティング時や日々の業務で確認指導している。	声掛けは「さん」づけを基本として丁寧な言葉遣いを心がけている。利用者の人格を尊重することを常に意識し、トイレ介助の際には、本人に近づいてそっと話しかけたり、「トイレ」と話さずに「用事があるから」などの言葉で話しかけている。排泄の失敗時には、自尊心が非常に高く強い人もいるため、本人の気持ちを傷つけないよう、十分に配慮して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	基本としてできる限りの自己決定が出来る支援を心掛けている。表現しにくい利用者様に関しては選択等の方法で対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者の体調や気持ちを尊重し、職員本位の支援や介助にならないようには心掛けている。その点に対応した権利擁護の研修もだいたいとうの事業所全体で研修に取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者様に衣類の選択をしてもらったり、整容で身だしなみの支援をしている。また、サイズが代わったり不足用品については家族に連絡し用意をいただいている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこにこだいとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者と一緒に食事の準備を行うスタンスは変えていないが、現状では準備に加われる利用者様はなく、片づけを主に一緒に行っている。行事には地元のお店を利用することも継続している。	献立作成と調理は職員が行い、利用者の嗜好を把握して好みの食事を提供しよう努めている。利用者は昔ながらの食事を好む方が多く、すいとんやあずきばっと、煮物などが喜ばれている。お寿司の希望も多いため、行事食ではよく提供している。利用者は、調理の手伝いは出来なくなってきたものの、食事後の片付けや茶碗拭き等を手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	日々の食事量や水分量を記録している。体調や状況に応じて食事形態の変更も対応している。摂取量のデータは通院時などに使用することがある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアへの声掛けと取組を実施している。また、義歯使用者については必ず夜間は洗浄剤を用いての消毒を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	GHIには機能向上を目的とした支援は無いが、残存能力が低下しない様に、日常生活動作は頑張ってもらっている。現状では全利用者とはいえないが出来る利用者様はトイレ利用と、立ち上がり協力動作をいただいている。	6人の方がリハビリパンを使用し、2人が布パンツで自立して、1人がオムツ使用となっている。排泄チェック表も活用しながら適時の声掛けと誘導による介助を行っている。入居時に夜はリハビリパンツを使用していた方が、布パンツになったり、入院時にはオムツ使用だった方が、夜間のみとったりする改善例が目される。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこにこだいとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	乳製品飲料や水分提供し便秘予防に努めている。水分は一日1500ml以上を心掛けている。排泄記録をもとに下剤の調整や、受診時の相談などの対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	利用者様の体調や気分に応じて、入浴予定に沿って実施している。利用者様の状態に応じて必要な支援介助を行い、快適に行えるよう努めている。また皮膚状態の把握も行い、必要に応じた処置や連絡をしている。	週2回を基本に午前中の中の入浴となっている。入浴剤を使用してリラックスしたり、職員と会話を楽しんだり、職員は利用者の方が元気に過ごしていた頃の昔の話に耳を傾け、共感しながら時間を楽しく過ごしている。また皮膚状態の変化にも注意を払っており、必要な場合にはクリームを塗って対処している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	レク活動や家事など、日中の活動を促し夜間の良眠につなげている。必要に応じてご家族や主治医に相談し、眠剤の対応も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬されている薬の効能や副作用を理解する為、投薬変更時にはケアミーティングなどを利用して確認している。またチェック表を用いて飲み忘れ防止に努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこにこだいとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事やレク活動に参加を促している。基本的には無理強いせず利用者様の意思を優先にしているが、行事などの際にはなるべくの参加を促している。トラブルのないように必要に応じて仲介できるように職員も参加している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	少しずつ外出行事も再開している。主にドライブ外出しているが、近隣コンビニへの買い物もすることがある。	日常、事業所の周辺を散歩したり、職員と道路を隔てた向かいにあるコンビニストアまで行き、買い物を楽しむ方もいる。季節に応じたドライブでの外出支援では、春は東山町内の桜名所巡りドライブ、秋には同じく町内を紅葉狩りでドライブしているほか、道の駅を巡ってアイスなどを食べることも楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者の預り金は廃止中。必要物品についてはご家族様に用意していただくか、こちらで立替て後日請求の対応を取っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	現在の利用者に関しては電話や手紙での連絡を求める方はいない。面会や、職員がご家族様への連絡で済んでいる。ご家族様との通院などの連絡調整にはGHのLINEも利用している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこにこだいとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホール内には利用者様と一緒に作成した季節にあった装飾を行っている。冷暖房設備を上手く使い、快適に感じる空間を作っている。	ホール内には、両側から十分な日差しが入り、明るい雰囲気となっている。テーブル三台を繋げ大きなテーブルとして活用し、利用者が周囲に腰かけて歌ったりボール遊びをしたり、テレビの音楽に合わせて歌を楽しんだりして寛いでいる。ホールの壁には、職員と利用者が一緒に手作りのクリスマス飾りなどの作品が飾られ、季節感一杯の暖かい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールにソファを設置したり、ホール隣には談話スペースも設けており、静かに過ごしたい方などがよく利用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	できる範囲で利用者様の意向に沿った居室づくりをしている。荷物に関しては、ご家族と相談しながら保管や補充に協力をいただいている。	居室にはベッドとクローゼット、タンスが備え付けられており、室内はエアコンで適温で快適に保たれている。利用者は、それぞれに馴染みのテレビや時計、イス、テーブル、カセットデッキなどを持ち込んで好きな場所に置き、壁には家族や行事の写真を思い思いに飾って、本人にとって居心地の良い部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	状況や状態に応じて環境を整備し整備している。申し送りやミーティングを用いて検討・精査してリスクマネジメントをしている。検討内容や変更内容はLINEや申し送りノートで共有している。		